

2013年10月26日

地理情報システム学会学会賞委員会
委員長 関根 智子

《 2013年度学会賞について 》

10月25日の理事会において、学会賞委員会の推薦2件について理事の承認を経て、2013年度学会賞は、以下のように決定いたしました。

《 学会賞授賞者および授賞理由 》

研究奨励部門 村上 大輔（筑波大学大学院システム情報工学研究科博士後期課程）

村上大輔氏は、ネットワーク上の距離を用いた内挿法の改良、空間従属性と体積保存性をみたす面補間の提案、空間統計の交通ネットワーク空間への拡張など、独創的な多くの研究を行っています。特に、通常空間でなく固有ベクトル空間フィルタリングの有効性を空間情報科学分野で初めて紹介し実証した研究は、高く評価できます。このような空間統計学、とくにkrigingの拡張を試みた一連の研究は、いずれも独創性があり、また、継続した意欲的な研究となっており、その研究成果は、「GIS—理論と応用」に筆頭および単著の原著論文として3編掲載され、地理情報科学の発展に寄与しています。今後、さらなる研究の発展が期待され、空間統計学を牽引する有望な若手として将来性があると考え、地理情報システム学会学会賞研究奨励部門を授与するのにふさわしいと判定しました。

教育部門 東京大学 CSIS 寄付研究部門

東京大学 CSIS 寄付研究部門の一連の研究は、柴崎亮介氏を代表に、現在は9名で行われており、また、過去の参加者が3名と16社と、2008年から続く大規模プロジェクトとなっています。研究内容は、地理空間情報の共同整備や流通、公開Web地図サービスの実態把握、人の流れプロジェクト、また、交通流動と第三次産業への応用など多岐に渡り、今後の「ビッグデータ解析」分野からも重要で価値のある研究と高く評価できます。今後は、研究の成果を「GIS—理論と応用」に原著論文として掲載していただくとともに、当部門の目的である「地理情報システムに関する教育（小学校、中学校、高等学校、大学、社会人教育などを含む）に貢献」していただくことを期待し、地理情報システム学会学会賞教育部門を授与するのにふさわしいと判定しました。

以上

※ 第22回地理情報システム学会学術研究発表大会内で授賞式が執り行われる予定でしたが、大会の開催は、台風27号の影響により中止されました。11月14日のG空間EXP02013（東京・台場）で開催される地理情報システム学会主催のシンポジウム「マーケティングGISの最前線：ジオデモグラフィクス2013」内で、開始前に、改めて授賞式を執り行います。